

4. 教育内容・方法・成果

【2】教育課程・教育内容

【2】教育課程・教育内容

1. 現状の説明

(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

<1>大学全体

本学の卒業要件単位は124単位としており、学位規程および学部規程により定めた教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程の構成を学部・学科ごとに体系的に編成している。以下では、大学全体の教育課程に基づく授業科目として、全学共通科目、大学全体で重点的に取り組んでいる初年次教育、キャリア教育、留学生用科目（日本語）、教職課程について述べる。また、他学部の科目や他大学の科目の受講についても述べる。

1 全学共通科目

全学共通科目として、「敬天愛人」の精神の浸透を目的とする「敬天愛人講座」および学生の主体的な学びを支援する「敬愛プログラム」を開設している。これらの科目は大学教務部委員会で審議し、学部教授会の議を経て決定される（資料4(2)-1）。

「敬天愛人講座」（2単位）は2008年度に開始した。「敬天愛人」の精神を浸透させることを目的とし、多彩な講師陣により、公德心・公共マナーを含めた人間教育を実践している。毎年度、大学教務部委員会がテーマと担当教員を決定し、本学を含め千葉敬愛学園を構成する千葉敬愛短期大学、千葉敬愛高校、敬愛学園高校、千葉敬愛短期大学附属幼稚園の各代表者から成る「敬天愛人委員会」に報告し、部門を超えた意見交換を行う。

「敬愛プログラム」（2単位）は2009年度に開始した。学生（個人またはグループ）の自主的・自発的な発想による活動を支援し、学部・学年を超えたグループ活動も可とする。学生から提出された企画書は大学教務部委員会で審議し、承認されれば、大学からの補助金により当該年度に活動できる。本科目は国際学部こども学科では、「専門科目」の「その他」（他学部・大学単位互換科目）で単位認定を行う。

なお、本学では、ボランティア活動は建学の精神に沿うものであるだけでなく、学生が社会と関わることで主体的に学ぶことができるものとして積極的な参加を呼びかけている。創設時からボランティア科目を開設してきた国際学部につき、経済学部も「地域ボランティア活動」（2単位）による単位認定を行っており、大学全体で単位化を行っている。

2 初年次教育、キャリア教育

本学では、卒業に向けて必要な技能・能力を身につけさせるため、全学的に初年次教育および就職に向けたキャリア教育に力を入れている。

初年次教育は、基礎学力を向上させるために、リメディアル科目として「口頭表現」「文章表現」「基礎数学」の3科目（各2単位）を1年次に開設する。これらは、後述するように、学部・学科により、また日本人・留学生の別やカリキュラムの年度により、必修・選択が異なる。次に、高校と大学の学びのギャップを解消し、学生が大学生活に違和感なく溶け込むことを目的とし、1年次に「基礎演習」を必修として開設する。後述するように、

4. 教育内容・方法・成果

【2】教育課程・教育内容

科目の名称や開設の方法は、両学部で異なる。初年次教育は、本来の目的と同時に中退者防止のためにもその重要性が強く認識され、2010年度および2011年度のFD研修会ではいずれも「初年次教育」をテーマに議論を重ねてきている（資料4(2)-2 p.4）。

キャリア教育は、両学部教員（各2名）とキャリアセンター長（職員）で組織するキャリアセンター運営委員会が企画・運営・評価している。キャリア科目は、経済学部では8科目を開講し2科目4単位以上を選択、国際学部では10科目を開講し2科目4単位以上を選択としている。開設数や名称は学部・学科により、またカリキュラムの年度により異なるが、内容は同様である。

就職に向けては、キャリア科目の他に、資格取得を推奨するためのライセンス科目を開設している（国際学部こども学科を除く）。ライセンス科目は、本学入学後に得た資格を単位認定するもので、学部・学科により科目の名称は異なるが、全学共通のIT関連資格科目をはじめ、学部・学科の特性により認定される資格科目から構成される。

3 留学生用科目（日本語）

本学では留学生が占める割合が比較的高く（2013年度現在、経済学部で25.6%、国際学部国際学科で34.0%）、留学生の日本語能力を高めるために、日本語科目を必修（合計4単位）としている。開設方法は学部により異なり、経済学部では1・2年次前期・後期に1科目（週1回各1単位）ずつ計4科目、国際学部では1年次前期・後期に1科目ずつ（週2回のため各2単位）計2科目を開設している。

4 教職課程

本学では、教育職員免許状の取得を目指す学生のために、それぞれの学部に教職課程を設けている。学部・学科の特性によりカリキュラムは異なるが、小学校教員養成課程を除く教職に関する科目を共通開設している。経済学部では中・高社会科教員・高校商業教員（2012年入学者までは高校情報科教員のための科目も開設）、国際学部国際学科では中・高社会科および英語教員、同こども学科では小学校教員養成のための科目を開設する。教職に関する事項は、学部教職課程委員会を設置して審議するが（資料4(2)-3）、必要に応じて全学合同教職課程委員会を開催する。

5 他学部の科目受講

国際学部においては、学外での学びの機会を提供する短期・長期の海外留学として、「海外語学研修」「海外スクーリング」等（各2単位）を開設している。これらは、経済学部学生の履修も可能であり、学部教務委員会の提案を受けて、大学教務部委員会で承認する。本科目以外にも、他学部で開設される科目に対して、担当教員の許可を得られれば受講を可能とし、単位認定も一定数まで認めている。

他方で、2009年度以降、両学部が同一のキャンパスとなったメリットを活かし、同様の内容をもつ科目について、いわゆる教養科目を中心に、学部教務委員会および大学教務部委員会が共通化に向けて検討してきた。2012年度に、共通化に伴う受講生の人数も考慮しつつ大幅な科目の見直しを行った結果、2013年度には、44科目が両学部共通科目となった。

4. 教育内容・方法・成果

【2】教育課程・教育内容

6 他大学の科目受講

学生が、千葉県私立大学、短期大学単位互換協定締結加盟校の23大学・15短期大学および放送大学で開講された科目の受講を希望する場合、これを可能とし、単位が認定されれば、一定単位数（経済学では14単位、国際学部では12単位）を本学の自由選択科目群の単位として認定している。また、近隣の三大学（千葉大学、神田外語大学、城西国際大学）と本学を含めた四大学で構築した「千葉圏域コンソーシアム」（資料4(2)－4）の成果を受け、本コンソーシアム参加大学で相互に公開した科目についても受講を認め（資料4(2)－5）、単位が認定されれば、本学の単位として認定する（資料4(2)－6）。ここで、千葉圏域コンソーシアムとは、言語・文化・価値観・身体的能力等の違いを越えるバリアのない「ユニバーサルコミュニケーション」実現に向けて、FD実践に裏付けられた体系的な教養教育のカリキュラムを開発する取組みで、2009年3月30日に単位互換協定調印式が行われた。本コンソーシアム開放科目は、KCNシステムおよび学内の掲示で学生に周知している。

<2>経済学部

経済学部は、2013年度から経済学科と経営学科の2学科制であるが、教育課程の構成を、学部共通科目および学科専門科目により体系的に編成している。以下では、学部共通科目、学科専門科目に分けて述べる。

1 学部共通科目

学部共通科目はすべて1年次から取得でき、基礎科目（9科目）、言語科目A（第一外国語）（4科目）、言語科目B（第二外国語）（24科目）、教養科目（22科目。経済学科ではこの他に教職科目16科目も含む）、情報科目（10科目）、キャリア科目（8科目）、演習科目（9科目）を配置している。

基礎科目は、1年次で基礎的な能力を高め、専門的な学びへの学力をつけるための準備段階として配置している。初年次教育として、前述したリメディアル教育3科目（各2単位）を必修とする。また、「基礎演習」（前期・後期各1単位。計2単位）および「入門経済学」「入門経営学」（各2単位）を必修とし、2年次配当の「専門導入演習」（前期・後期各1単位。計2単位）への橋渡しとして位置づけている。「基礎演習」はすべて専任教員が担当し、経済学、経営学を習得する上で必要な基礎知識や表現力、理解力を養うことを目的とする。「入門経済学」「入門経営学」は、経済学科、経営学科における各コースにおいて習得すべき科目内容、分析対象・課題設定等の違い、さらには卒業後の進路とのかかわり等を含めて幅広く経済学・経営学の考え方や基礎知識を習得することを目的とし、2年次以降の学科選択や「専門導入演習」の選択に重要な指針を与えるものと意義付けている。

専門への架け橋としては、少人数教育による演習科目を1年次から4年次まで意義・実施内容を違えて配置している。1年次の「基礎演習」は、学びや大学生活を支えあう友人を作る場所であり、専門演習（ゼミナール）は2年次以降に配置する。2年次の「専門導入演習」は、学科選択のガイダンス時の説明を受け、自由意志により演習担当教員を選択できる。その後、3年次の「専門研究」（前期・後期各1単位。計2単位）、4年次の「卒業演習」

4. 教育内容・方法・成果

【2】教育課程・教育内容

(前期・後期各1単位。計2単位)と段階を踏み、総仕上げとして「卒業論文」(2単位)を必修としている。「卒業論文」は担当教員による指導・評価により卒業の可否が決まる。

言語科目は1単位で、第一外国語として英語(4科目)、第二外国語として、中国語、フランス語、ドイツ語を各々Ⅰ～Ⅳまで配置するが、英会話やビジネス英語等(8科目)も第二外国語とする。教養科目は、1・2年次で取得が可能な内容の科目を配置している。

なお、経済学部では自由選択科目なる区分を設け、ラインセンスプログラム(17科目)を配置する。また、経済学科では、教職および教科に関する科目も配置している。

2 学科専門科目

学科専門科目は、経済学・経営学の考え方と専門知識を体系的に習得させることが目的である。学科共通科目として、基本科目A(1～2年次選択)(経済学科8科目、経営学科4科目)、基本科目B(2～4年次選択)(経済学科26科目、経営学科22科目)を配置し、これに、各コースを特徴づけるコース科目、さらに、展開科目(経済学科23科目、経営学科27科目)を配置する。ここで、コース科目とは、学科ごとに設置された各3コース計6コース各々の体系的理解と応用力をつける目的をもち、各コースが想定する就業先で必要な能力を身に付けるための科目である。教育目的を効果的に達成するため、コース内の科目間の関係を明確にし、段階的に勉学を進めるカリキュラムとしている。

経済学科は、未知の課題に果敢に挑み、社会の変革に対応する力を身につけ、公務員、金融機関、民間企業での活躍する人材を育てるために、コース科目として、「公共経済コース」に、公共経済部門が市場経済の枠組みの中で果たす役割について体系的に学習し、国や地方自治体等公共部門の経済運営や政策決定に携わる知識と能力の育成に必要な17科目、「金融・情報コース」に、金融業務、金融コンサルタント業務に必要なリスク管理、金融資産運用等ファイナンシャルプランニングの機能と役割について習得すると同時に会計・簿記検定試験に必要な知識の習得に必要な15科目、「現代経済コース」に、経済学の理論、歴史、政策等経済学を幅広く学習し、日本・世界経済における様々な課題に取り組む人材の育成に必要な16科目を配置し、各コースとも16単位を選択とする。また、各コースとも学生の進路を支援するため、「進路支援講座Ⅰ～Ⅵ」を開設する。本講座にはコース共通科目(2科目)およびコース別科目(4科目)を配置し、少人数の演習形式により、経済学の習得に必須の数学的思考方法を身に付けることに主眼を置く。

一方、経営学科は広く社会に必要とされる人材を養成するため、コース科目として、「アジアビジネスコース」では、世界経済におけるアジアの重要性が高まる中で、アジアを舞台に活動する企業で活躍できる人材の養成に必要な18科目(うち1科目は実習科目。以下のコースも同様)、「企業経営・会計コース」では、千葉県等の地域に密着して活動している企業で、消費者ニーズを的確に把握し、柔軟に対応できる人材の養成に必要な19科目、「スポーツビジネスコース」では、健康に関する社会的なニーズが高まる中、スポーツクラブ・ジム、スポーツ用品販売等の産業で活躍できる、実技経験と経営知識を併せ持った人材の養成に必要な13科目を配置し、各コースとも2単位必修の実習科目の他、14単位を

4. 教育内容・方法・成果

【2】教育課程・教育内容

選択する。経営学科では、コースによる選択科目の違いが大きい。また、キャリア教育として、インターンシップに全員が参加することを義務付けており、そのために必要な能力を取得させるための科目も配置している。

経済学部では、中学校教諭1種免許状「社会」、高等学校教諭1種免許状「地理・歴史」「公民」「商業」が取得できるが、必要な科目が言語科目、教養科目、教科専門科目に分散されているため、目指す教育職員免許状の種類に応じて該当する教職科目を履修する。

<3>国際学部

国際学部は、学位授与方針に基づいて教育課程を体系的に編成している。両学科共通科目は、1年次の必修「国際関係入門」および「College English I・II」のみである。その他は、学生や社会のニーズ、教育環境を取り巻く社会経済状況等を考慮しつつ学科別に編成している。リメディアル3科目や1年次から4年次まで少人数による演習科目（「1年基礎演習」(2単位)「2・3・4年次専門研究」(各4単位)）も学科別に開設するが、演習科目は両学科とも専任教員がきめ細かい指導を行い、特に、「1年基礎演習」では、高校から大学教育へと橋渡しをする導入演習として、大学で学ぶために必要なキャンパス・スキルやアカデミック・スキルの指導に注力している。以下、学科ごとに述べる。

1 国際学科

国際学科では、2012年1月学科会議で、「国際教養をベースに、英語とITの能力を身につけ、ビジネス、教育等の分野で活躍する人材を育成」することを再確認した。そのための教育課程の具体的な編成内容については、Webサイト上に公開している(資料4(2)-7)。国際学科の授業科目は、基礎科目(22科目)、専門科目(156科目)、外国語科目(31科目)、情報科目(3科目)、自由選択科目(58科目)により編成する。

国際学の基礎的教養を育成するために、基礎科目のほとんどを1年次に開設する。基礎科目としては、「国際関係入門」(2単位)をはじめ、一般教養科目やリメディアル教育3科目(各2単位)、さらに「日本理解I・II」(各2単位)、「千葉学I・II・III」(各2単位)等を配置する。ここで、千葉学は、国際人であると同時に地域社会に貢献する人材育成を目的とし、本学が位置する千葉に対する理解を高め、地元貢献意識を涵養するための科目である。基礎科目ではまた、障害のある人々との共生をテーマとする「ユニバーサルコミュニケーション(手話)」を開設する。

国際学科では、学びの専門分野として、「国際理解」「国際ビジネス」「英語・英米文化」の3つを用意しているが、専門科目は、これをテーマごとに細分化して編成した8つの科目分野(フィールド):「世界の国と地域(A)」「国際社会のしくみと課題(B)」「世界の日本の日本(C)」「国際経済・経営(D)」「アグリ・フード・環境(E)」「情報システム(F)」「英語(G)」「英米文化・文学(H)」に整理し、これに「教職科目(I)」を加える。「国際理解」はA~C、「国際ビジネス」はD~F、「英語・英米文学」はG~Hの科目を中心とし、I以外のフィールドでは、1年次からの体系的な学びの道筋をカリキュラム上に明示できるように、「導入」「基本」「発展」の3段階に分け、年次配置および組み合わせ積み上げ式に編成す

4. 教育内容・方法・成果

【2】教育課程・教育内容

る。専門科目をフィールドとしてまとめることにより、前回申請時に指摘された「体系的学修確保の問題」が解決できた。2年次から4年次までの「専門研究」の帰結として、4年次は「卒業論文」の指導を行い、専門研究と別に単位化する。

国際学部では、中学校教諭1種免許状「英語」「社会」、高等学校教諭1種免許状「英語」「地理・歴史」「公民」が取得できるが、教職科目は、専門科目以外にも社会、英語関連の専門科目として分散するため、取得を目指す教育職員免許状の種類に応じて、該当する教職科目を履修していく。

外国語科目は、グローバル人材育成の観点から、特に英語力の育成に力点を置いており、「College English I・II」をベースに、「College English III・IV」（いずれも週2回のため各2単位）「Writing I・II」（1単位）「Debate I・II」（1単位）等多数開設している。英語以外には、初修外国語として必要性の高い中国語、フランス語、外国語特殊（2013年度は朝鮮語）を開設する。留学生は「総合日本語I・II」（週2回のため各2単位）だけでなく「口頭表現」（2単位）も必修とする。また、日本語力のさらなる向上をめざし、「実践日本語I・II」（各1単位）も開設し、日本語能力試験N1レベルの取得を推奨している。

グローバル人材養成のためにIT能力の育成にも力を入れており、情報科目として、「情報処理I・II・III」（各1単位）を1年次開設科目とし、ITに関する知識やデータ解析能力を身につけるために、専門科目である「情報システム」フィールドに、「情報概論」「アルゴリズム論I・II」「システム設計論I・II」「マーケティングリサーチI・II」（各2単位）を開設している。これらは、ITパスポートや社会調査士資格等の取得にも有用である。

国際学科で特筆すべきは、体験学習や海外体験、主体的な活動を重視することで、これらの活動を自由選択科目中の実習科目（6科目）として単位化している。自由選択科目では、キャリア科目（10科目）、ライセンス科目（25科目）、日本語養成講座科目（10科目）を開設し、学生の資格取得を奨励・支援している。その他、他大学・他学部・他学科の科目に関しても本学科で提供できない科目履修を認めることで、学生の勉学意欲を支援する。

2 こども学科

こども学科では、基礎教育科目として、学部共通基礎科目（外国語科目17科目を含む49科目）およびこども学科基礎科目（30科目）、専門科目として、学部発展科目（17科目）、こども学科専門科目（29科目）および専門研究・演習（5科目）を配置している。さらに、小学校教諭一種免許取得に必要な科目として、教職課程科目を配置している。

「こどもの教育」の基礎的教養を育成するために、基礎科目のほとんどを1年次に開設し、「憲法」「国際関係入門」「小学校英語I・II」（各2単位）をはじめとする一般教養科目、また「1年基礎演習」（2単位）を必修とする。専門科目は、国際学に関する認識を深めるための学部発展科目として、「比較文化論」「世界の人権論」（各2単位）等を開設するとともに、こどもの教育の専門科目として「小学校英語指導法I・II」「こどもの心と体」（各2単位）等を開設し、「こどもの教育」に関して多面的に学ぶことを可能にしている。

英語科目の開設は、英語力の育成と向上を図ることが目的であるが、教職課程履修（小

4. 教育内容・方法・成果

【2】教育課程・教育内容

学校教諭一種免許)の学生が、小学校の外国語活動の指導方法を修得できる内容も含む。

教職課程科目では、各教科の指導法、道德教育および特別活動の指導法、教育実習等を含めた14科目を開設している。

(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

<1>大学全体

1 全学共通科目

「敬天愛人講座」は、本学の教職員がオムニバス形式で講義を行う(資料4(2)-8)。学生は、受講した中から関心のあるテーマを2つ選び、担当者は試験等により~~による~~評価する。単位認定は、学生が所属する学部の教務委員長が行う。

「敬愛プログラム」は、イベントの企画・実施、商店街や事業所の調査等、学内外における活動のテーマを設定し、事前に達成目標や段取りを明記した企画書を作成し申請する。学生主体ではあるが、企画申請時や中間発表時等に、大学教務部委員により適宜指導を行い、活動を支援する。単位認定は、活動内容の報告書および報告会におけるプレゼンテーションの結果により、所属学部の教務委員長が行ったものを大学教務部委員会で承認する。

2 初年次教育、キャリア教育

本学では中退者防止の目的もあり、初年次教育、特に1年次の「基礎演習」を重視している。専任教員によるきめ細かい指導を可能にするため、少人数のクラスにしている。本学には、国際学部こども学科を除き留学生も在籍するため、日本人学生・留学生双方の教育効果を上げるために、クラス編成方法等を工夫してきたが、2012年度以降は、両学部とも日本人学生・留学生を別のクラスにしている。

キャリア科目は、1年次は「社会を知る」をテーマに将来の目標を持つ事の重要性を体感するグループワーク授業(通称「キャリアゼミ」。必修ではないがほぼ全員が履修)、2年次は「社会に触れる」をテーマに卒業生との交流やインタビュー等を通じて社会構造を理解するグループワーク授業、3年次は「社会を体感する」をテーマにビジネス課題を解決するPBL(Problem Based Learning)授業やPDCAサイクルを体感するビジネスシュミレーション授業および実習事前指導(11コマ)・実習(5日間以上)・実習事後指導(5コマ)・プレゼンテーションを実施するインターンシップを開設している。この他に、ビジネスマナー・文章・会話を修得する科目、各業界で活躍中の企業人を講師として招聘し、現実の状況を学ぶ科目(2013年度17人)も開設する。キャリア科目は、文部科学省大学改革推進事業で採択された「“チバイチバン”プロジェクト」(資料4(2)-9)によるもので、ビジネスコミュニケーションに必要な就業力として、本学独自に指標化「チ:チームワーク、バ:バイタリティ、イ:イノベーション、チ:知識・知恵、バ:バランス感覚、ン:気づき(notice)」を行い、科目ごとにどの力を伸ばすことができるのかを提示する。また、社会・企業が求める要件として様々な職種のロールモデルも提示することで、学生は各自の目標を実現す

4. 教育内容・方法・成果

【2】教育課程・教育内容

るために自主的に科目を選択し、目的意識をもって学修し、各能力の成長度合を自己評価し、社会で活躍するための人間力（“チバイチバン”力）を確認できる。

ライセンス科目、IT関連資格のマイクロソフト・オフィスの各種資格（各2単位）および情報処理推進機構主催のITパスポート資格（4単位）を全学共通とする。IT関連資格の取得は、メディアセンターが実施する生涯学習講座（資料4(2)－10）を利用するが、本学の学生は講習料を無料とし、資格取得を奨励している。なお、ITパスポート資格対策講座は、より積極的に取得を奨励するため、2014年度からは修学支援室により実施する。

＜2＞経済学部

経済学部の詳細な講義・演習の内容は、シラバスにより確認することができる（資料4(2)－11）。以下では、学部共通科目、学科専門科目に分けて述べる。

1 学部共通科目

基礎科目は、1年次にすべての科目（16単位）を取得する必要がある。言語科目は、言語科目Aとして開設した「英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」のすべてを必修としている。言語科目Bとしては、「中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「英会話Ⅲ・Ⅳ」「ビジネス英語Ⅲ・Ⅳ」等を開設しているが、日本人学生は同一言語4単位を選択、留学生は「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を必修としている。また、教養科目は「敬天愛人講座」「敬愛プログラム」「哲学」等（各2単位。「スポーツ教育Ⅰ・Ⅱ」のみ各1単位）の中から12単位、情報科目は「情報概論」「情報システム論」等（各2単位）の中から4単位を選択としている。その他に、キャリア科目の4単位を選択としている。以上の学部共通科目は、1・2年次中に取得するよう指導を行っている。

演習科目は、前述したように1年次から4年次までの必修に加え、4年次で卒業論文の完成で2単位を付与するため、卒業までに合計で10単位を必要とする。

2 学科専門科目

経済学科の学科共通科目は、基本科目A（必修）として、「経済理論Ⅰ・Ⅱ」「日本経済史Ⅰ・Ⅱ」「西洋経済史Ⅰ・Ⅱ」の6科目（各2単位）を開設し、8単位を必要とする。基本科目B（選択）として、「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」「ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」等26科目（各2単位）を開設し、22単位を必要とする。経済学は体系的な学問で段階的な学習が不可欠であるため、「経済理論」科目は基本科目Aに配置し、1年次に履修すべき科目としている。

コース科目は、公共経済コースは、「公共経済学」「地方自治論」「地方財政論」等（各2単位）、金融・情報コースは、「銀行論」「証券経済論」「企業金融論」等（各2単位）、現代経済コースは、「日本経済論」「労働経済論」「ヨーロッパ経済論」等（各2単位）を設置する。展開科目は、「社会思想史Ⅰ・Ⅱ」「金融事情Ⅰ・Ⅱ」「計量経済学Ⅰ・Ⅱ」「環境経済学Ⅰ・Ⅱ」等23科目（各2単位。「TOEIC(R)向上講座Ⅰ・Ⅱ」のみ各1単位）のうち10単位を必要とする。自由選択科目は、必要単位数の上限を越えた科目、経営学科の科目、ライセンスプログラムの科目が該当するが、教職課程の科目を含めることも可能である。

4. 教育内容・方法・成果

【2】教育課程・教育内容

次に、経営学科の基本科目 A (必修) は、「経営学 I・II」「簿記論 I・II」の 4 科目 (各 2 単位) で全 8 単位が必修である。基本科目 B (選択) は、「マーケティング論」「経営分析 I・II」「人的資源管理 I・II」等 22 科目 (各 2 単位) のうち 22 単位を必要とする。

コース科目は、アジアビジネスコースは、「アジアビジネス論」「中国ビジネス論」「アジアの工業立地」等 (各 2 単位)、企業経営・会計コースは、「地域企業経営論」「地域企業会計論」「会計学」等 (各 2 単位)、スポーツビジネスコースは、「スポーツビジネス論」「スポーツ産業論」「生涯スポーツ実習」等 (各 2 単位) を設置する。展開科目は、「経済政策 A I・II」「ミクロ経済学 I・II」「マクロ経済学 I・II」等 27 科目 (各 2 単位。「TOEIC(R) 向上講座 I・II」のみ各 1 単位) を開設し、10 単位を必要とする。自由選択科目は、必要な教養科目、言語科目 B、情報科目、キャリア科目等卒業必要要件の上限を越えた単位の科目やライセンスプログラムの科目である。経営学科で特筆すべきは、学位授与規程に鑑み、育成すべき人材が備えるべき言語として、日本人学生に中国語を必須とすることである。

< 3 > 国際学部

国際学部の詳細な講義・演習の内容は、シラバスにより確認することができる (資料 4(2) -11)。以下、学科ごとに述べる。

1 国際学科

国際学科は、学際的なカリキュラムの中で国際学を体系的かつ多角的に学べるようにするために、専門教育科目をテーマごとに科目フィールドに編成し、段階的な年次配置としている。また、演習担当教員は、面談や KCN システム等により学生の学修達成度を確認しながら、その専門分野を拠点に演習を通して国際学の体系的な学びをサポートしている。

外国語科目は、特に英語力の学習効果を上げるため、「College English I・II」は入学時の能力レベルに応じたクラス編成 (2013 年度は 6 クラス) による。2 年次以降も選択科目として「College English III・IV」を開設する。また、専門科目「英語」フィールドの「実践英語 I・II・III」(各 2 単位) も配置し、外国語科目と専門科目を連動させている。さらに、「英語」フィールド以外でも英語による授業科目 (「国際連合の仕組みと活動 (System and Activities of the UN)」) を開設し、英語力の向上を目指す。

IT の能力として、パソコンによる文書作成、データ処理、プレゼンテーション技法は、アカデミック・スキルとして不可欠であるため、1 年次に「情報処理 I・II・III」により、WORD、EXCEL、POWERPOINT、ACCESS の使い方を学ぶ。専門科目である「情報概論」「アルゴリズム論 I・II」「システム設計論 I・II」では IT に関する知識、「マーケティングリサーチ I・II」では、統計学および統計解析ソフト SPSS を用いたデータ解析方法について学ぶ。

国際学科では、社会との接点を重視する体験学習や海外体験等の主体的活動を重視しており、実習科目として、「海外語学研修 I・II」「海外スクーリング I・II」(各 2 単位)「国内スクーリング I・II」(各 1 単位)「ボランティア活動 I・II」(各 2 単位)「敬愛プログラム」(2 単位)「実習特殊 I・II」(各 2 単位) を配置している。「海外語学研修」には英語のプログラムがあり、本学と提携する海外の大学で夏季または春季休暇に約 1 か月の語学

4. 教育内容・方法・成果

【2】教育課程・教育内容

研修を実施する。また、「海外スクーリング」は、専任教員が専門分野を活かして企画引率する1週間前後の海外体験プログラムで、現地の社会や文化に触れ、ビジネス・教育現場を視察し、現地の人々や大学生等と交流する。年間2つのスクーリングを企画するが、入学時に4年間分を提示し、学生が参加計画を立てやすくしている。「海外語学研修」「海外スクーリング」の企画・運営は国際交流委員会が行い、単位認定は学部教務委員会が行う。「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」は、「ボランティア活動Ⅰ」でボランティア活動を企画・実施するための方法を講義し、「Ⅱ」で活動実践する。「実習特殊」は、例えば、専門科目「アグリ・フード・環境」フィールドにおいて、農業ビジネスの可能性を図る活動として千葉黎明高校との教育連携事業と連動した農業実習を含めた様々な農業関連企業・県市等地方自治体の取り組みを学ばせ、単位認定を行う（資料4(2)－12）。

教職課程は、取得を目指す教育職員免許状の種類に応じて教職科目を履修する仕組みになっているため、履修に関わる相談は、教職科目を担当する教員が個別に対応している。また、教員採用試験を受験する学生のために、学内に教員採用試験対策講座を設けている。

2 こども学科

こども学科における学科基礎科目の必修は、1年次の「小学校英語Ⅰ・Ⅱ」をはじめとする4科目8単位である。「こどもの教育」のより深い理解に向けて、1・2年次に33単位を選択として位置づけている。専門科目は学部発展科目の「比較文化論」「異文化コミュニケーション」「世界の人權論」の必修3科目6単位の他に、学科専門科目として30単位以上の履修が必要であり、このうち「こどもと家庭の関係論」「小学校英語指導法Ⅰ・Ⅱ」「こどもの心と体」「日本の文化とこども」等の7科目14単位を必修とする。その他に「教育行政」「教育方法・技術論」等の選択科目がある。これにより、「こどもの教育」を学び、教員を目指す学生が多いことを踏まえ、教職科目の履修を受講する際に高い関心を持つことができ、学びの質の向上を図ることができるよう配慮している。

教育内容としては、「こどもの教育」のより深い理解を図れるよう、学生の興味・関心に十分応えられるものを吟味している。また、体験や実践を積極的に取り入れ、経験を通しながら「こどもの実態」「こどもの指導」「こどもの可能性」をより具体的に理解できるようにしている。このため、理論だけではなく、実感を伴った理解を通して「こどもの教育」を学ぶことができる。さらに、教育職員免許状取得を目指す学生の教育実習をはじめ、各種の実習やボランティア活動における高い実践力を培う上でも有効である（千葉県教職たまごプロジェクト、大学周辺の小学校におけるスクールサポーター、稲毛夜灯祭り等）。

2. 点検・評価

●基準の充足状況

教育課程・教育内容について、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設する、教育課程を体系的に編成し、その各課程に相応しい教育内容提供するという方針のもと、本学ではこれを実現しており、同基準を概ね充足している。

4. 教育内容・方法・成果 【2】教育課程・教育内容

①効果が上がっている事項

<1>大学全体

- ・建学の精神「敬天愛人」に基づく教育目標を達成するために、大学全体の共通科目として「敬天愛人講座」を開設し、学生への浸透を図っていることは評価できる。
- ・大学全体で初年次教育に注力していることは、中退防止の点からも評価できる。
- ・1年次から学年進行にあわせたキャリア教育の内容が充実している。
- ・資格取得を支援するために、学部・学科の教育内容と合致する資格をライセンス科目として単位化するにあたり、大学運営室、メディアセンター、キャリアセンターが中心となって各種対策講座を設けていることは評価できる。

<2>経済学部

- ・学生にとって、テーマを定め、検証可能な資料を集め、原則3年（2年次から3年間）という長期にわたって卒業論文の執筆をすることは、社会人として必要な問題発見、分析、書類作成能力を養うことにつながっているため、十分に効果が上がっている。

<3>国際学部

- ・体験学習や海外体験および主体的活動を重視しているため、海外スクーリング、学内外におけるボランティア活動が毎年スムーズに実施されており、学生の問題意識の高まり、視野の広がり、問題解決に向けた思考力の向上に結び付き、学生の学習意欲を高めている。
- ・国際学科では、英語教育が専門科目（英語による授業を行う科目を含む）や海外での実習科目と連動することによって、より充実し多岐にわたる内容となっている。
- ・留学生向けの必修科目は、留学生の日本語能力を高めるとともに、アカデミック・スキルの向上に役立っており、主要な中退防止策となっている。
- ・こども学科では、学科基礎科目のうち1・2年次に33単位を選択として位置づけたことにより、3年次以降の教職科目での取り組みが意欲的になり、理解が深まった。また、体験や実践的な取り組みを取り入れたことで、「こどもの教育」を学ぶ上で「こども」を具体的なイメージをもってとらえ、考えていくことが可能になった。

②改善すべき事項

<1>大学全体

- ・学部を超えて学生の主体的な学びを支援するために大学全体の科目として開設した「敬愛プログラム」の履修者が減少傾向にある。

<2>経済学部

- ・卒業論文の執筆と就職活動の時期が重なるために、学生にとっての負担が大きい。また、卒業論文の提出時期が1月であるため、卒業論文提出後の報告会や表彰を行う場がない。

4. 教育内容・方法・成果

【2】教育課程・教育内容

・経済学科では体系的な学びを重視するため、科目の制約が厳しく、また、学生にとって複雑な科目構成となっている。基礎から応用へと学ぶ科目の順番の重要性を学生に周知するだけでなく、より履修しやすい科目構成の提示が課題である。

・経営学科申請時に、経済学科でもコースの見直しやカリキュラム編成を行ったが、大学で提供したい内容に対し既存の人材による制約があり、改革が十分であったとはいえない。

< 3 > 国際学部

・国際学科では、海外スクーリングに比較すると、海外留学や海外語学研修について、学生の認識がまだ十分であるとはいえない。

・こども学科では、経験を通してながら「こどもの教育」の具体的な理解や研究心を高めていくため、体験や実践の質的な向上とともに体験の量を増加させる工夫が必要である。

3. 将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

< 1 > 大学全体

・「敬天愛人講座」の内容をさらに充実させるため、大学教務部委員会で本科目の重要性の再確認を行った上で、2013年度10月の「敬天愛人委員会」で運用方法に関する提案を行う。

・今後も初年次教育には力を入れ、「1年基礎演習」の責任者体制は継続していく。

・大学教務部委員会は、今後もキャリアセンターと緊密な連携をとり、キャリア教育関連科目を充実させていく。

・今後も、担当各部署は大学教務部委員会、学部教務委員会と連携しながら、学生が資格取得をしやすい環境作りを継続する。

< 2 > 経済学部

・今後も卒業論文を軸とする3年間の「専門演習」を必修とすることを継続し、社会人として必要な能力の育成に努める。

< 3 > 国際学部

・今後も、体験型学習重視の方針を継続し、講義との連携および連動性をさらに高める。

・国際学科では、海外における実習科目として2013年度から開始されたフィリピンでのビジネス系の語学研修、交換留学制度を提携したロシア連邦リャザン州立大学との交流を発展させ、今後さらに学外の体験型学習プログラムの内容の充実を図る。

・国際学科では、留学生にN1対策講座の周知をさらに徹底し、合格者を増やしていく。

・こども学科では、体験を伴う指導方法を教職課程の必修科目を中心に授業内容に意図的に取り入れ、学生が「こどもの教育」をより実感をもって学べるようにしていく。

②改善すべき事項

< 1 > 大学全体

4. 教育内容・方法・成果

【2】教育課程・教育内容

・「敬愛プログラム」に対する学生の関心を高め、応募者（履修者）を増やすために、2013年11月の大学教務部委員会では有効な支援体制を確立し、その内容を学生に周知する。

＜2＞経済学部

・卒業論文作成を実のあるものとするため、学部教務委員会で、卒業論文の提出時期を早めて報告会開催を可能にする等、改善策を2013年度中にまとめる。

・経済学科では、まず関連する科目を整理し、担当教員同士で教える内容や手法を理解するために、互いに踏み込んだ議論も必要となるが、2013年度中には方策を立案する。

・経済学科では、今後、カリキュラムの改善を見込んだ新しい人材を入れていき、統合・削減科目の絞り込みと同時に各コースにとって特色ある科目の新設も併せて検討していく。

＜3＞国際学部

・国際学科では、2014年度は国際交流委員会と連携しながら、学科としても海外留学・海外語学研修の周知方法等を検討・改善し、学生への浸透を図っていく。

・こども学科では、体験や実践の質的な向上については、2014年度に小学校の教員の資質・能力として必要とされるものの育成をふまえ、教育内容や方法についての改善を検討する。量の増加については、広い視野から「こどもの教育」を捉え、認識を深めるために、有効な体験や実践の場を2014年から順次、大学の近隣に増やし、授業と教育関係の体験的ボランティア活動を効率的に両立できる状況を充実していく。

4. 根拠資料

- 4(2)－1 敬愛大学教務部委員会規程（既出 資料4(1)－12）
- 4(2)－2 敬愛大学FD研修会実施状況（抜粋 教育の資質の維持向上の方策）
- 4(2)－3 敬愛大学教職課程委員会内規
- 4(2)－4 千葉圏域コンソーシアムホームページ
<http://www.trial.ge.chiba-u.jp/>
- 4(2)－5 平成24年度前期敬愛大学特別聴講生受け入れ予定者の決定について（通知）
平成25年度前期千葉大学特別聴講生受け入れ予定者の決定について（通知）
- 4(2)－6 平成24年度後期千葉圏域コンソーシアム特別聴講生に伴う単位認定について
- 4(2)－7 敬愛大学ホームページ「国際学部国際学科」
<http://www.u-keiai.ac.jp/international/inter-study/index.html>
- 4(2)－8 敬天愛人講座スケジュール（24年度、25年度）
- 4(2)－9 敬愛大学ホームページ「就職・キャリア チバイチバンを知る」
<http://www.u-keiai.ac.jp/career/chibaichiban/chibaichiban001/index.html>
- 4(2)－10 平成25年度後期生涯学習講座案内
- 4(2)－11 授業計画書（全学年用）2013（既出 資料1－5）
- 4(2)－12 敬愛大学ホームページ「国際学部 フード&アグリビジネス・コーナー」
<http://www.u-keiai.ac.jp/international/20100720162948/20130610140751/index.html>

4. 教育内容・方法・成果
【2】教育課程・教育内容